

冬期テキスト

実練編

# 国語

中学 2 年



# 第7講座

## 古典——古文の読解・漢文の知識

### 基本問題

学習日 月 日

わざを極めるためには、□ことが必要だ。

**1 次の古文を読んで、後の問い合わせに答えなさい。**

そもそも、<sup>\*</sup>上手にも悪き所あり、下手にもよき所かならずあるものなり。<sup>\*</sup>これを見る人もなし。<sup>①</sup>主も知らず。上手は、名を頼み、達者に隠されて、悪き所を知らず。下手は、もとより工夫なければ、悪き所をも知らねば、よき所のたまたまあるをもわきまへず。されば、上手も下手も、たがひに人に尋ねべし。

(注) 上手＝わざのすぐれた者。

これを見る人もなし＝これを見分ける人もいない。

（宮城）  
〈風姿花伝〉より

**2 次の古文を読んで、後の問い合わせに答えなさい。**

ある人庭鳥を飼ひけるに、日々に金のまろかしをかい子に産む事あり。主これを見て、よろこぶ事かぎりなし。しかりといへども、日に一つ産む事を堪へかねて、「二つも三つも続けさまに産ませばや」とて、その鳥を<sup>\*</sup>打ちさいなめども、その<sup>\*</sup>験もなく、日々に一つより外は産まず。主心に思ひけるやうは、いかさまにもこの鳥の腹には、大きなるこがねやはべるべきとて、その鳥の腹を割く。<sup>③</sup>かやうにして、頂きより足のつまさきまで見れども、別のこがねはなし。その時主後悔して、「もとのままにておかましものを」とぞ申しける。そのごとく、人の欲心に耽る事は、かの主が鳥の腹を割けるにことならず。日々にすこしの儲けあれば、その<sup>\*</sup>一命を過ぐるものなれども、積みかさねたく思ふによつて、つひに飽き足る事なくて、<sup>\*</sup>あまつさへに宝をおとして、その身をもほるぼすものなり。

（滝川高改）

（注）金のまろかしをかい子に産む＝金のまるい卵を産む。  
打ちさいなめども＝打ち叩いて責めるけれども。  
験＝効果。

（伊曾保物語）より

10

**問1 人物理解——線①「主も知らず。」とありますか、この「主」に当たる人物として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。**

- A 上手    B イ 上手と下手  
ウ 下手    E 工 これを見る人



**問2 古語の意味——線②「名を頼み」とありますが、その意味として、最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。**

- A 上手であるという名声を過信して  
B 上手であるという名声を誇示して  
C 上手であるという名声を追求して  
D 上手であるという名声を期待して



**問3 内容理解** 次の文は、この古文で述べられていることをまとめたものです。□に当てはまる言葉を、二十字以内で書きなさい。

積みかさねたく思ふによつて＝財産を蓄えたいと思うものだから。  
あまつさへに＝その上に。

問1 仮名遣い  
——線①「いへども」・③「かやうにして」を、現代仮名遣

いに直して書きなさい。

1  
3

会話文――線②「心に思ひけるやうは」とあります、「主」が心の中で思った内容はどこからどこまでですか。初めと終わりの五字をそれぞれ抜き出しなさい。

問3  
ア 庭鳥　イ かい子(卵)　ウ 主　エ 作者  
——線④「見れども」の主語を次から一つ選べ——

**問4 内容理解** ——線⑤「日々にすこしの儲け」があるとは、庭鳥の話でいうと、どういうことに当たりますか。古文中から七字で抜き出しなさい。

**問5 内容理解** ——線⑥「宝をおとして」とは、庭鳥の話でいうと、主が庭鳥をどうしたことですか。二十字以内で書きなさい

**問6 主題** この話に述べられている教訓として適切なものを次から一つ選び

ア イ ウ エ  
人間はあまり欲を出すと、ついにはわが身の滅亡を招く。  
人間は欲を出さなくとも、身を滅ぼすことがたまにある。  
人間は欲を出す出さないにかかわらず、身を滅ぼすものだ。  
人間は物質的な欲が過ぎると、精神的な面で悪影響がある。

1

映画の世界

- **主語の省略**……古文では、主語が省略されていることが多い。誰がした動作か、誰が言つた言葉かなど、主語を補いながら読む。
  - **係り結びの法則**：係助詞「ぞ・なむ・や・か」があるときは連体形に、「之そ」があるときは已然形に、文末が変化する。
  - **漢文の読み方**：返り点に従つて、漢字をどの順序で読むのか確認する。

**3** 次の漢文の書き下し文を読んで、後の問い合わせに答えなさい。

**世に伯樂有り、然る後に千里の馬有り。**千里の馬は常に有れども、**伯樂は常**

には有らず。故に名馬有りと雖も、祇だ奴隸人の手に辱められて、槽櫈の間に駢び死し、A。

(注) 伯樂＝馬を見分ける名人。  
槽櫈＝飼い葉桶。

**問1** 返り点・送り仮名――線①「伯楽は常には有らず」とあります。が、この読み方になるように、次の漢文に返り点と送り仮名を書き入れなさい。

伯樂不常有

不<sub>下</sub> 以<sub>二</sub> 千 里<sub>一</sub> 称<sub>上</sub> 也<sub>也</sub>  
ガル ツテ ヲ ラレ なり

( )

**問3 内容理解** この文章で筆者が主張したいことについての説明として最も

適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

才能があるかどうかは、評価する人によつて変わる。

ウ 工 どれほど才能があつても、無理をすればだめになる。  
憂れた才能は、それを認めて伸ばす人が不可欠である。

## 演習問題

**1** 次の古文を読んで、後の問いに答えなさい。

長崎改

昔、季札、呉王の使として、ものへ行きける道に、徐君といふ友だちに逢ひて、ものいひけるほどに、徐君、季札が佩ける太刀を望む氣色ありけれども、言葉に出でていはざりけり。季札、これをさとりて与へむと思ひけるが、「われ、使節の身なり。」<sup>(3)かへ</sup>帰りさまに与ふべし」と心中に契りて去りぬ。<sup>(2)</sup>いくほどを経ずして、<sup>(4)</sup>帰さに尋ぬるに、徐君、早くはかなくなりにければ、心の中の約束のたがへざらむがために、かの塚をたづねて、その剣をかけける。

佩ける＝腰につけている。  
帰りさま＝帰る途中。

塚  
墓

「十訓抄」より

**問1 内容理解**——線①「これ」とありますが、どのようなことを指していますか。三十字以内で書きなさい。

問2 古語の意味——線②「いくほどを経ずして」とあります、この部分の意味として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。  
ア どれほどもしないうちに。 イ どうしても忘れられずに。  
ウ どこにも立ち寄らないで。 エ どうするべきかわからず。

問3 主語——線③「帰さに尋ぬるに」の主語を、古文中から抜き出して書きなさい。

1

ける、いとありがたかりけり。

「徒然草」より

**2** 次の古文を読んで、後の問い合わせに答えなさい。

〈京都改〉

(1) 相模守時頼の母は、松下禪尼とぞ申しける。守を入れ申さるる事ありけるに、すすけたる明り障子の破ればかりを、禪尼手づから、小刀して切りまはしつつ「張られければ、兄の城介義景<sup>a</sup>、その日のけいめいして候ひけるが、「給はりて、なにがし男に張らせ候はん。<sup>b</sup>さやうの事に心得たる者に候ふ」と申されければ、その男、尼<sup>②</sup>が細工によもまさり侍らじ」とて、なほ一間つつ張られけるを、義景、「皆を張りかへ候はんは、はるかにたやすく候ふべし、まだらに候ふも見苦しくや」とかさねて申されければ、「尼も、後はさはさはと張りかへんと思へども、今日ばかりは、わざとかくてあるべきなり。物は破れたる所ばかりを修理して用ゐる事ぞと、若き人に見なはせて、心づけんためなり」と申されける、いとありがたかりけり。

**問5 人物理解** 「季札」はどのような人物として書かれていますか。最も適切なものを一つ選んでください。

切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

**問4 内容理解** ——線④「心の中の約束」とあります、この内容が具体的に書かれている部分を古文中から十字以内で抜き出しなさい。

(注) 入れ申さるる=ご招待なさる。  
けいめいして=準備につとめて。

なにがし男＝だれそれという男。

ヤハヤハと=すりヤリと。

問1 表現技法――線①「相模守時頼の母は、松下禅尼とぞ申しける。」で用いられている表現として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 挂詞 イ 対句 ウ 体言止め エ 係り結び

**問2 歴史的仮名遣い** ——線a「切りまはし」、b「さやう」を現代仮名遣いに直し、すべて平仮名で書きなさい。

a  
b

問3 古語の意味  
——線②「尼が細工によもまさり侍らじ」の意味として最

ア 私と一緒に手仕事をしていいと言つたのでしようか。  
も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

イ  
私の手仕事には決して勝つていないのでしょう。

工  
私より上手に細工をすることができるでしょう。

問4 内容理解 ——線③「わざとかくてあるべきなり」とあります、尼は

何のために、わざとどうしたと言っていますか。四十字以内で書きなさい。

**3** 次の漢文を読んで、後の問い合わせに答えなさい。  
趙簡子に臣有り。周舍と曰ふ。\*よしょかんし 直諫を好めり。周舍死す。簡子朝じょうを聴く毎に  
常に悦ばず。大夫舉を請ふ。

舍	ノ	一	簡	子
鄂	ガク	一	曰	ハグ
是	一	狐	大	夫
以	モツテ	之	無	レ
憂	④「うれフルなりト」	腋	臯	シ
也	。	諸	吾	聞
		大	聞	ク
		夫	千	*
		朝	羊	*
		徒		
		聞		
		唯		
		唯		
		不	皮	ハ
		レ	不	ズ
		聞	レ	ト
		周		シカ
〔蒙求〕 より				

(注) 直諫＝遠慮なくいさめること。  
朝を聴く毎に＝朝廷で政治について聴くたびに。

皇を請ふ。至らぬ点について罰せられることを願つた。

千羊之皮不如一狐之腋。千頭の羊の皮の価値は、一匹の狐のわきの皮に及はない。

朝に朝廷にやがて來ても、唯唯一人の意見に従ふ言葉、豈豈々一遠慮のない言葉

問1  
返り点　| 線①「大夫擧を讀ふ」とありますか、この読み方になるよ

うに次の白文に返り点を書き入れなさい。

「うう、こいつは誰の二三事か。文童

問2 内容理解 線(2)「吾」とありますか  
中から抜き出なさい。  
文章

中がく抜き出したとい

問3 内容理解  
線(3) 「一孤」とありますが、これは河をたどえた表現で

すか。文章中から二字で抜き出しなさい。

卷之三

問4 内容理解  
——線④「憂<sup>フル</sup>也（嘆いているのである）」とあります、

趙簡子はどのようなことを嘆いていますか。三十字以内の現代語で書きなさい。

弊社サンプルをご覧いただき、  
ありがとうございました。



# 紙面サンプルは ここまでです！

Bunri Teachers' Site へのご登録で、  
全ページ見本<sup>\*</sup>と目次をご覧いただけます。

※一部教材を除く

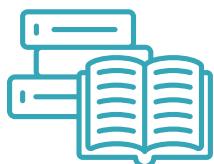
会員登録はこちら



Bunri Teachers' Site とは？

株式会社文理が運営する、塾・学校の先生方のための情報サイトです。

文理の教材紹介



デジタルサービスや  
テストのお申込み



教育情報の発信



オンラインセミナー  
のお知らせ

